

## 2021年小教区評議会役員交流会報告

■テーマ： サイクルテーマ①「教会と福音宣教の理解」

### 「コロナ禍における信仰と福音宣教」

■対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員

■講師：大塚喜直司教

■日時：2021年10月2日（土） 14:00～15:30

■開催方法：ZOOM ミーティング

■参加人数：71名（信徒60名、修道者1名、司祭10名） 約34教会 端末数66

■内容：ブレイクアウトルームでの分かち合い、司教講話

### 分かち合い

各グループ4～5名（信徒と司祭司牧者は別グループ）で、春の研修会の司教講話や一場神父のコメントなどをヒントに、以下のポイントを踏まえ「コロナ禍における信仰と福音宣教」をテーマに分かち合いを行いました。

1. コロナ禍の体験を通して教会共同体としてどのような学びがあったか
2. どのように福音を見出すことができるか
3. この共通体験の中で大切だと思ったこと、気付いたこと。

全体会の分かち合いの発表では、つながりを広げるためにさらにIT機器の使用を推進することや、信仰やSNSの使い方について外国籍信徒から学ぶべき点多々ある等、オンラインの活用の必要性を感じておられることが伝えられた。

### 大塚司教講話要旨

コロナ禍が続く中、わたしたちは今後「ウィズ・コロナ」という意識を持つ必要があります。そして、過去、感染症のパンデミックの後の社会が元の状態に戻らず変化を遂げてきたように、わたしたち教会共同体もこの災禍をただ耐え忍ぶのではなく前へ進んで行きましょう。教会活動の自粛によって教会共同体が受けた、つながりの希薄、司祭・信徒間の意識の違いや不寛容といったダメージを互いに認め、またわたしたちが信仰共同体としての「フルタイムの信仰」を生きていたかを振り返ることは、今できる大切なことです。今を新たな福音宣教のためのスタートを切るための準備の時と捉え、活動することではなくミサの恵みを意識して生きることが宣教であることを皆で確認し、今後の共同体のあり方を考えて欲しいと思います。「いつもこうしてきた」という安易な司牧基準を捨て（教皇フランシスコ）、社会の中での野戦病院としての教会の役割に挑戦していきましょう。

### 福音宣教企画室振り返り

今回の交流会ではコロナ禍の体験からの前向きな気づきや学びを分かち合いながら、同時にブレイクアウトルーム機能を使ったオンラインでの分かち合いを体験していただくことを目的に企画しました。対面での分かち合いとは異なる発言のタイミングや音声の聞き取りに気を遣うことがあったかもしれませんが、今回の経験を次の機会に活かしていただければと思います。

全体会での発表の時間が限られたため、発表のなかったグループは分かち合いの様子やお気づきの点などを「役員ひろば」（教区HPよりアクセス）に書き込んでいただき、こちらでもぜひ交流していただきたいと願っています。

2021年10月 福音宣教企画室作成